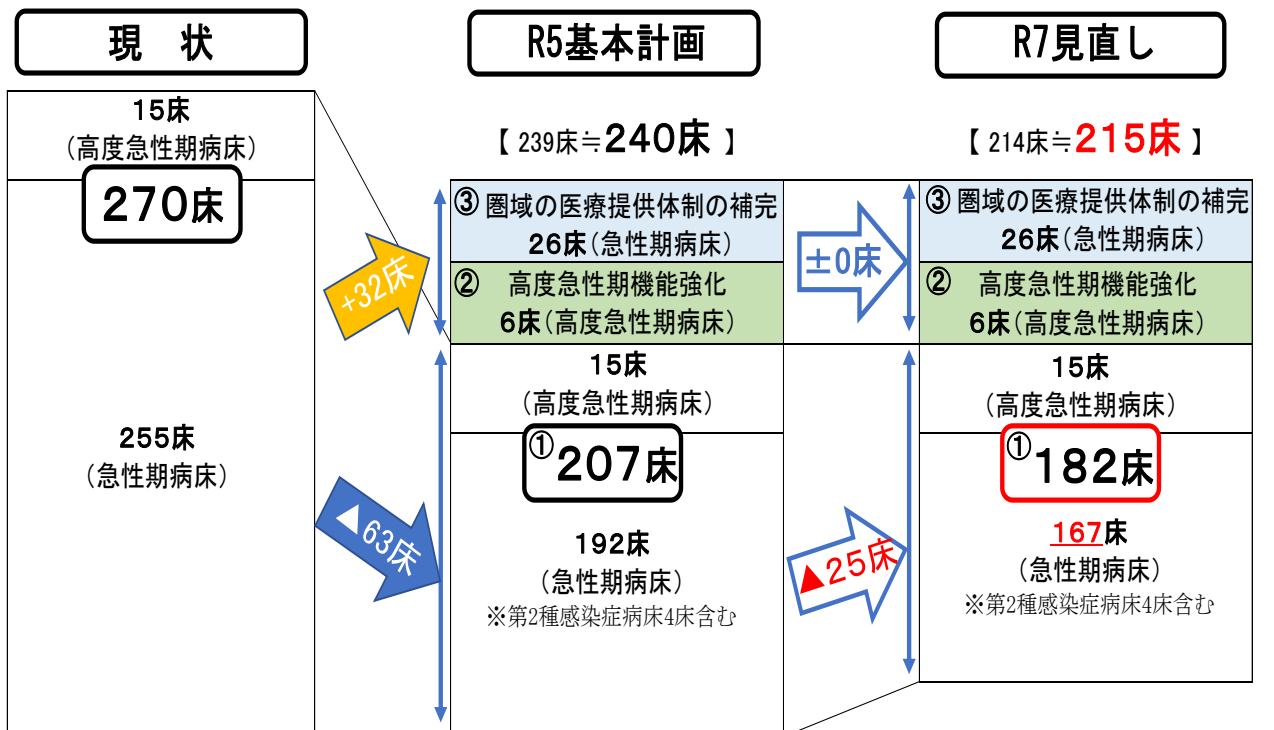


県立今治病院のあり方

- 今治圏域において最多の病床を有する中核病院として、他の医療機関では対応が困難な政策的医療や高度・急性期医療を中心に担う。
- 圏域の医療機関との適切な役割分担と連携の下で、県立病院として対応すべき医療機能を強化する。
- 特に、圏域の医療供給体制の状況を踏まえ、医療機関、医師会、市町との役割分担を明確化し連携を強化した上で、不足する圏域の医療提供体制をしっかりと補完する。
 - 一般病床 現在270床→ R5計画時240床（うち高度急性期病床15床→21床）
→ 215床（うち高度急性期病床21床）

県立今治病院に必要な病床規模

- 今後の人口減少の進行を踏まえ、2035年の今治圏域の医療需要推計及び供給体制の想定に基づき病床規模を設定
- 2035年の医療需要推計に基づく病床に、圏域で供給不足が想定される医療機能の病床を追加し、必要な病床を**215床**とする。



将来の医療需要推計に基づく必要病床

→ R5基本計画207床

→ **R7見直し182床**

※新型コロナウイルス禍後の受療行動の変化による入院患者数の減少を反映させ再設定

高度急性期機能の強化 → +6床

緊急性の高い疾患(脳卒中、心筋梗塞等)の地域完結率の向上

圏域の医療供給体制の補完 → +26床

急性期医療を担う民間病院の機能を一部補完し、医療機能の分化を促進
※県立病院が補完する役割を強化

整 備 方 針

- 診療機能の拡張性・コスト・工期等から「移転・新築」が妥当
- 今治市の市有地(今治新都市第2地区)への早期移転整備を目指す。